

OXIDE

株式会社オキサイド

2025年2月期

決算補足説明資料

2025年4月14日

東証グロス:6521

豊かな未来を 光の技術で実現する

Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

決算補足説明資料に基づいて、ご説明させていただきます。

Agenda

OXIDE

01. 2025年2月期連結業績
02. 事業別業績 [半導体・ヘルスケア・新領域]
03. 財務情報
04. 2026年2月期 業績予想
05. 中期経営目標
06. 米国および中国の関税政策・輸出規制が当社に及ぼす影響について

売上高

83億94百万円前期比 +17億88百万円
修正予想比 +94百万円

営業利益

1億26百万円前期比 +11億9百万円
修正予想比 +1億26百万円

EBITDAマージン

13.6%

前期比 +14.8%

- 売上高、営業利益ともに第3四半期決算で開示した修正予想を上回り、営業黒字転換しました。
- キャッシュ創出力が回復し、EBITDAマージンが13.6%となりました。

まず初めに2025年2月期 通期決算ハイライトについてご説明いたします。

売上高、営業利益ともに第3四半期決算で開示した修正予想を上回り、営業黒字転換しました。

キャッシュの創出力が回復し、EBITDAマージンが13.6%となりました。

2025年2月期 通期実績



- 売上高 83億9,400万円(修正予想対比9,400万円増収、前期比17億8,800万円増収)
- 営業利益 1億2,600万円(修正予想対比1億2,600万円増益、前期比11億900万円増益)
- EBITDA 11億4,500万円(前期比12億2,200万円増益)

(単位:百万円、%)

項目	24年2月期 通期	25年2月期					増減
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	
売上高	6,606	1,388	2,010	2,322	2,673	8,394	1,788
営業利益	▲ 983	▲ 406	9	39	482	126	1,109
(営業利益率)	▲14.9%	▲29.3%	0.5%	1.7%	18.1%	1.5%	16.4%
研究開発費	1,049	315	311	365	304	1,296	247
設備投資額	2,035	-	-	-	-	1,676	▲ 359
EBITDA※1	▲ 77	▲ 144	280	309	699	1,145	1,222
(EBITDAマージン※2)	▲1.2%	▲10.4%	14.0%	13.3%	26.2%	13.6%	14.8%

Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved. ※1 EBITDA:営業利益に償却費(減価償却費・のれん償却等を含む)を加えた数値 ※2 EBITDAマージン率:EBITDA÷売上高

2025年2月期の通期実績についてご説明いたします。

売上高は、83億9,400万円となりました。修正予想対比9,400万円増収、前期比17億8,800万円増収です。

営業利益は、1億2,600万円となりました。修正予想対比1億2,600万円増益、前期比11億900万円増益です。

EBITDAは、11億4,500万円となりました。前期比12億2,200万円増益です。

連結貸借対照表



■ “のれん”減損等により純資産が減少し、財務コベナントの純資産維持条項に抵触する見込みですが、長期借入金については当初契約通りの返済で取引銀行の同意を得ており、短期借入金については返済期限を迎えた借入の同額借換に応じ
ていただいております。

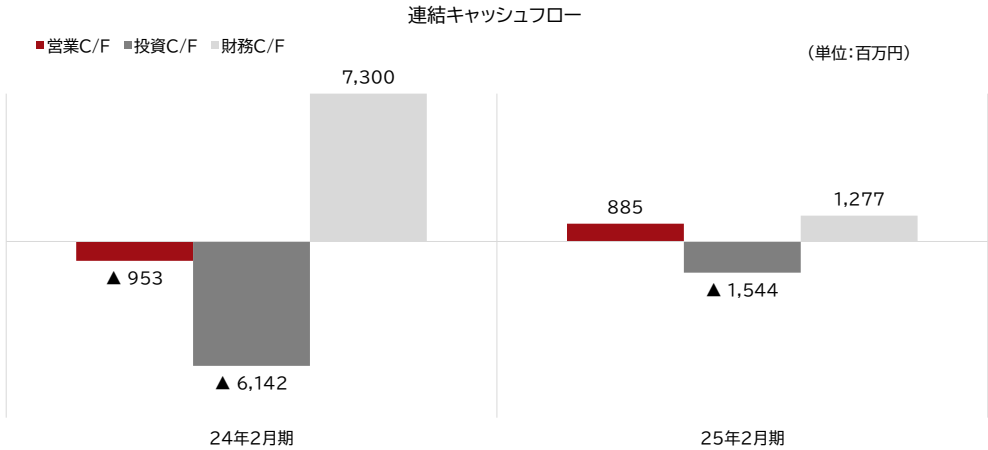
25年2月期 連結貸借対照表		(単位:百万円)
現金等	2,245	(前期末比+614)
その他の流動資産	6,278	(+351)
固定資産	9,681	(▲2,011)
資産		
有利子負債	10,369	(+1,163)
その他の負債	2,423	(▲11)
純資産	5,412	(▲2,198)
負債・純資産		

連結貸借対照表について、ご説明いたします。

“のれん”減損等により純資産が減少し、財務コベナントの純資産維持条項に抵触する見込みですが、長期借入金については当初契約通りの返済で取引銀行の同意を得ており、短期借入金については返済期限を迎えた借入の同額借換に応じ
ていただいております。

連結キャッシュフロー

■ 2025年2月期の連結営業キャッシュフローは黒字転換し、投資キャッシュフローの赤字は大幅に縮小しました。

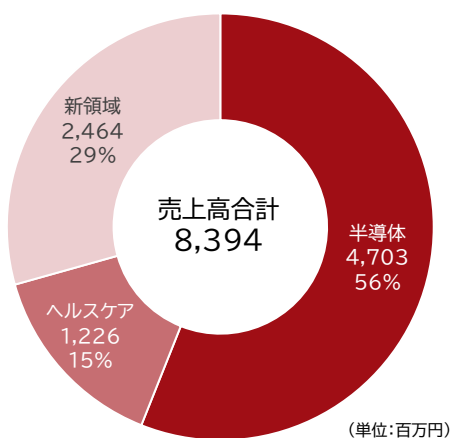


連結キャッシュフローについて、ご説明いたします。
2025年2月期の連結営業キャッシュフローは黒字転換し、投資キャッシュフローの赤字は大幅に縮小しました。

事業別売上高構成 2025年2月期

OXIDE

■ 事業別の売上高構成比は、半導体事業56%、ヘルスケア事業15%、新領域事業29%となりました。



半導体事業

半導体ウエハ欠陥検査装置向け単結晶・レーザの製造・販売



ヘルスケア事業

がん診断用PET検査装置向け単結晶の製造・販売



新領域事業

量子、パワー半導体、宇宙・防衛、エネルギー、美容など様々な分野へ展開

続いて、事業別売上高構成についてご説明いたします。

売上高83億9,400万円のうち、半導体事業が56%、ヘルスケア事業が15%、新領域事業が29%となりました。

半導体 | 売上高

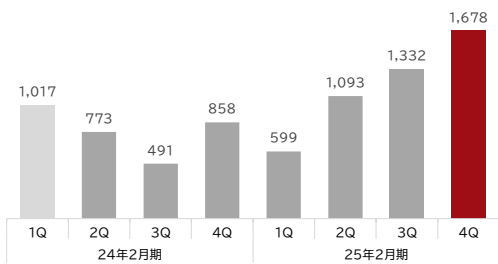
- 半導体事業の売上高は、四半期・通期ともに過去最高となりました。
- 通期売上高は、47億300万円(前期比15億6,300万円増収)です。

(単位:百万円)

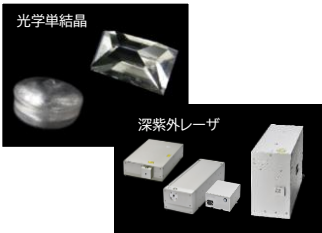
項目	24年2月期 通期	25年2月期					前期比
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	
売上高	3,140	599	1,093	1,332	1,678	4,703	1,563

売上高推移

(単位:百万円)



半導体ウエハ欠陥検査装置に用いる当社の製品群



半導体ウエハ欠陥検査装置



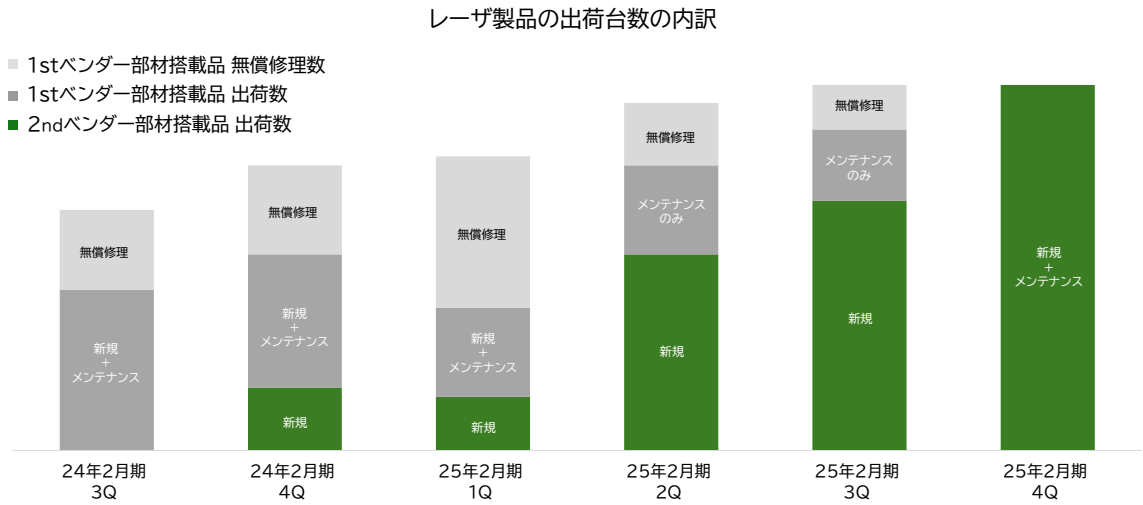
イメージ写真

事業別の業績についてご説明いたします。
まず、半導体事業の売上高は、四半期・通期ともに過去最高となりました。
通期売上高は、前期比15億6,300万円増収の47億300万円です。

半導体 | 部材不具合問題の完全解決

OXIDE

■ 部材不具合問題は完全解決し、第4四半期からは新規・メンテナンスともに100%セカンドベンダー部材搭載となりました。



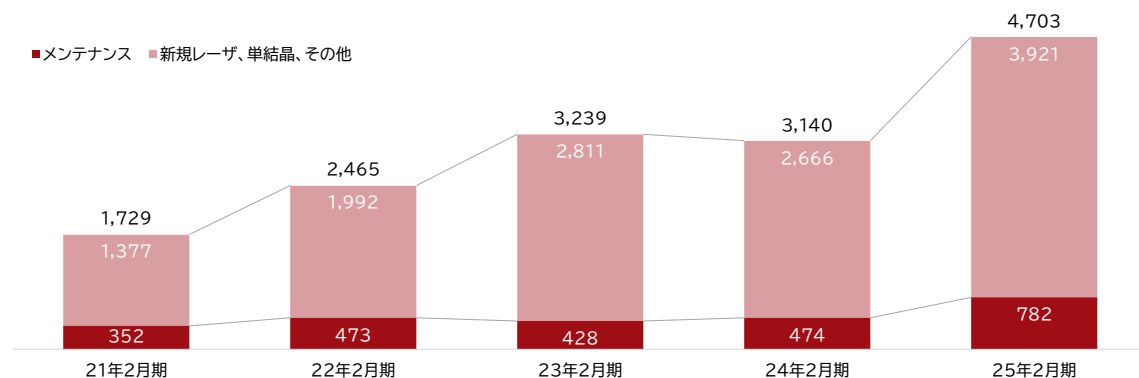
レーザ製品の部材不具合問題は完全に解決し、第4四半期からは新規・メンテナンスともに100%セカンドベンダー部材搭載となりました。

半導体 | 売上高推移

OXIDE

- 2025年2月期の売上高は、生産効率が大幅に改善したことによる既存製品の出荷増と新製品の研究開発受託が寄与し、増収となりました。
- 出荷したレーザ製品に対するメンテナンス需要が2025年2月期では増加基調となり、メンテナンス売上高は、7億8,200万円となりました。(前期比3億800万円増収)これはリカーリングのビジネスモデルとして安定した収益基盤の形成につながっていきます。

(単位:百万円)



Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

10

売上高推移についてご説明いたします。

2025年2月期の売上高は、生産効率が大幅に改善したことによる既存製品の出荷増と新製品の研究開発受託が寄与し、増収となりました。

出荷したレーザ製品に対するメンテナンス需要が2025年2月期では増加基調となり、メンテナンス売上高は、前期比3億800万円増収の7億8,200万円となりました。

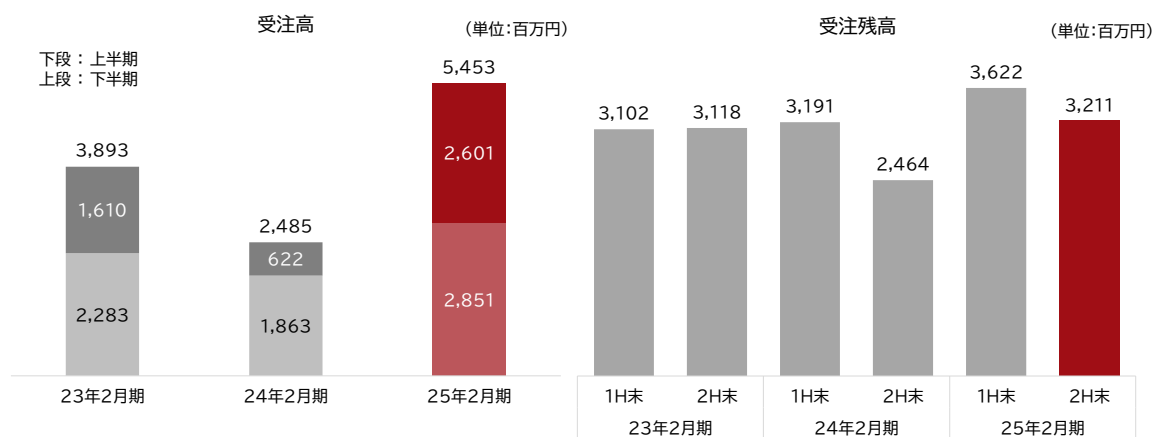
これはリカーリングのビジネスモデルとして安定した収益基盤の形成につながっていきます。

半導体 | 受注高と受注残高

OXIDE

■ 2025年2月期の受注高は、前期比2倍以上の54億5,300万円と過去最高となりました。

■ 2025年2月期末時点での受注残高は、32億1,100万円となりました。



Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

11

半導体事業の受注高と受注残高についてご説明いたします。

2025年2月期の受注高は、前期比2倍以上の54億5,300万円と過去最高となりました。

2025年2月期末時点での受注残高は、32億1,100万円となりました。

半導体 | レーザー学会産業賞「優秀賞」受賞

OXIDE

- 一般社団法人レーザー学会が主催する第17回レーザー学会産業賞において、「優秀賞」を受賞いたしました。
- 半導体製造装置市場での次世代プロセスの高度化に貢献し、さらなる成長を目指してまいります。

受賞製品

半導体検査装置用266nm 高出力パルスファイバーレーザー光源



受賞理由※

オキサイド社は、半導体検査装置向け266nm高出力パルスファイバーレーザー光源の開発を通じ、業界の品質管理および製造プロセスの向上に大きく貢献しました。本レーザー装置は、短波長・高出力・高繰返し動作を実現し、従来の可視・紫外レーザーでは困難であったウェハやマスク表面の欠陥・異物を高速かつ高精度に計測可能としました。また、独自の波長変換技術とBBO結晶の育成技術により、長寿命かつ高信頼性を確保し、半導体製造装置市場における次世代プロセスの高度化に寄与しました。さらに、国内外での販売実績も着実に伸長し、今後の市場成長が期待される分野での技術的優位性を確立しました。これらの功績を高く評価し、優秀賞の授与がふさわしいと判断しました。

半導体における直近のトピックスとして、2025年4月1日に当社は一般社団法人レーザー学会が主催する第17回レーザー学会産業賞において、「優秀賞」を受賞いたしました。

半導体製造装置市場での次世代プロセスの高度化に貢献し、さらなる成長を目指してまいります。

ヘルスケア | 売上高

OXIDE

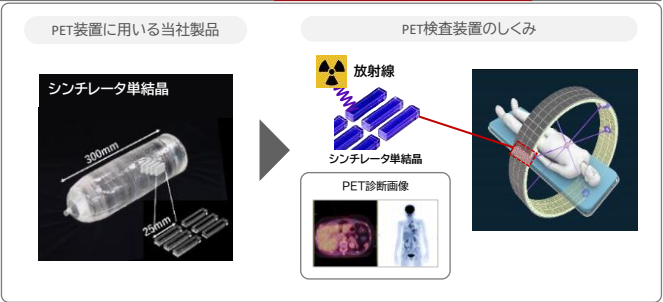
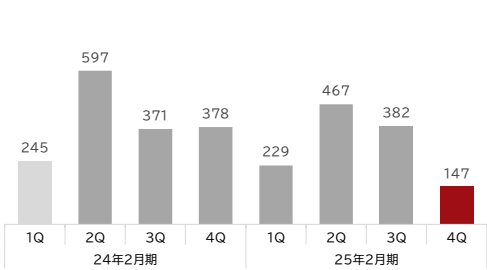
- ヘルスケア事業の売上高は、既存顧客の需要が減少し、前期比減収となりました。
- 新規顧客である高性能PETトップメーカーとの取引は、納入仕様確定に時間を要したため期ずれとなりました。2026年2月期以降に取引が本格化します。

(単位:百万円)

項目	24年2月期 通期	25年2月期					前期比
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	
売上高	1,772	229	467	382	147	1,226	▲ 546

売上高推移

(単位:百万円)



ヘルスケア事業についてご説明いたします。

ヘルスケア事業の売上高は、既存顧客の需要が減少し、前期比減収となりました。

新規顧客である高性能PETトップメーカーとの取引は、納入仕様確定に時間を要したため期ずれとなりました。2026年2月期以降に取引が本格化します。

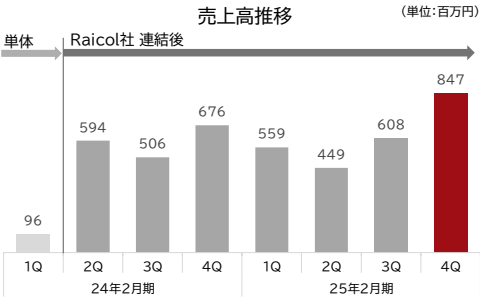
新領域 | 売上高

OXIDE

- 新領域事業の第4四半期の売上高は過去最高となりました。
- Raicol社はイスラエル紛争長期化の影響で低調な実績でしたが、オキサイド単体ではデータセンター向けの新規案件等が寄与し、通期連結では前期比5億9,000万円増収となりました。

(単位:百万円)

項目	24年2月期 通期	25年2月期					前期比
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	
売上高	1,874	559	449	608	847	2,464	590



事業化が進んでいる市場

- 宇宙・防衛
- 先端光計測
- 美容
- 光学部品

中長期的な成長が期待される市場

- パワー半導体
- 量子
- データセンター
- スマートグリッド

新領域事業についてご説明いたします。

新領域事業の第4四半期の売上高は過去最高となりました。

Raicol社はイスラエル紛争長期化の影響で低調な実績でしたが、オキサイド単体ではデータセンター向けの新規案件等が寄与し、通期連結では前期比5億9,000万円増収となりました。



深紫外レーザー・単結晶

基礎研究・半導体検査・産業応用

- 当社が世界で唯一製品化している114nm(真空紫外)レーザーを、世界各国の研究機関へ販売しています。2025年2月期は、最先端の材料物性研究用途で理化学研究所へ納入しました。
- 量子や次世代半導体検査分野において、深紫外レーザーの需要が拡大しており、複数の新規開発案件を受注しました。
- 当社深紫外単結晶への引き合いは、半導体検査用途に加えて産業用途でも急増しています。



量子もつれ生成モジュール・素子

量子応用

- 量子通信用途に、量子もつれ光子対を生成するモジュールの販売を開始し研究機関での評価が進展しています。
- 量子通信、量子センシングに加えて、量子コンピュータの開発用途に、波長変換デバイスの出荷が始まっています。
- 量子分野は研究開発段階ですが、当社の高い技術力と品質が評価され、売上高が約6億円まで増加しています。

新領域事業の研究テーマについてご説明いたします。

基礎研究・半導体検査・産業応用におきましては、当社が世界で唯一製品化している114nm(真空紫外)レーザーを、世界各国の研究機関へ販売しています。2025年2月期は、最先端の材料物性研究用途で理化学研究所へ納入しました。

量子や次世代半導体検査分野において、深紫外レーザーの需要が拡大しており、複数の新規開発案件を受注しました。

当社深紫外単結晶への引き合いは、半導体検査用途に加えて産業用途でも急増しています。

量子通信用途に、量子もつれ光子対を生成するモジュールの販売を開始し研究機関での評価が進展しています。

量子通信、量子センシングに加えて、量子コンピュータの開発用途に、波長変換デバイスの出荷が始まっています。

量子分野は研究開発段階ですが、当社の高い技術力と品質が評価され、売上高が約6億円まで増加しています。



ファラデー回転子・シンチレータ単結晶

生成AI・データセンター応用、宇宙応用

- 光の偏光方向を回転させる特性を持つ「ファラデー回転子」の販売を開始いたしました。世界的なデータセンター需要の拡大を背景に、ファラデー回転子の需要が増加しております。
- 当社の高性能シンチレータ単結晶は、高温安定性やγ線エネルギー能力に優れているため、宇宙での放射線検知用途で採用されました。



溶液法SiC単結晶

電力インフラ・大型モビリティ応用

- 溶液法SiCの加工やエピタキシャルに関するバリューチェーンの構築を目的として、株式会社JSファンダリと業務提携をしました。
- インクルージョンフリー※の高品質・大型SiC単結晶育成に成功し、サンプル出荷を開始しました。

Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved. ※単結晶内のインクルージョン(内包物)は、結晶の純度や構造を乱し、品質や信頼性低下の原因となります。

16

生成AI・データセンター応用におきましては、光の偏光方向を回転させる特性を持つ「ファラデー回転子」の販売を開始いたしました。世界的なデータセンター需要の拡大を背景に、ファラデー回転子の需要が増加しております。

宇宙分野応用におきましては、当社の高性能シンチレータ単結晶は、高温安定性やγ線エネルギー能力に優れているため、宇宙での放射線検知用途で採用されました。

溶液法SiCにおきましては、溶液法SiCの加工やエピタキシャルウエハに関するバリューチェーンの構築を目的として、株式会社JSファンダリと業務提携をしました。

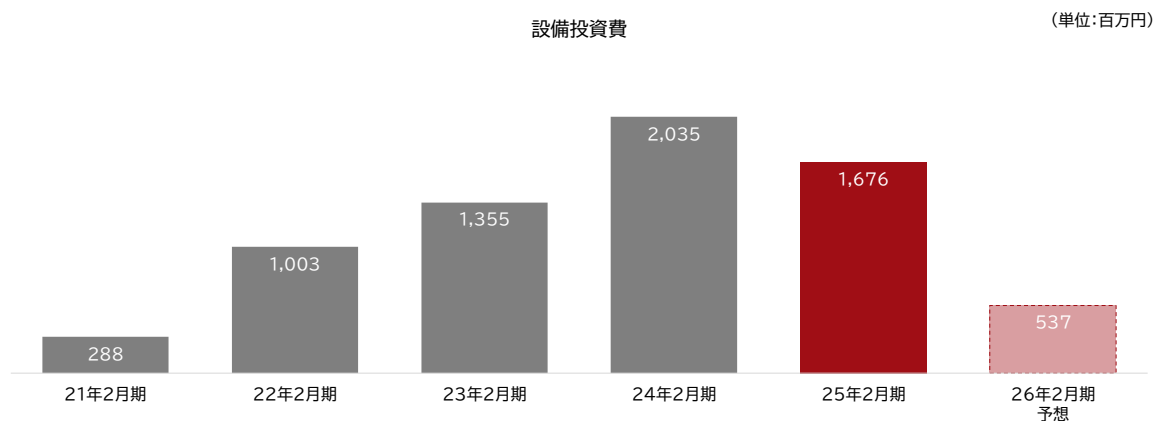
インクルージョンフリーの高品質・大型SiC単結晶育成に成功し、サンプル出荷を開始しました。

当社はこれらの成果を基盤に、成長市場への参入と新たな価値創出を目指してまいります。

【設備投資費】

OXIDE

- 過去数年間にわたる大型の設備投資は2024年2月期をピークとし減少に転じました。
- これまでの大型投資により、半導体事業を中心に製造キャパシティを拡大しました。
- 大規模な設備投資を行うフェーズから、事業の成長と収益性向上を図るフェーズへとシフトしていきます。



Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

17

次に、設備投資費についてご説明いたします。

設備投資費は、16億7,600万円となり、過去数年間にわたる大型の設備投資は2024年2月期をピークとし減少に転じました。

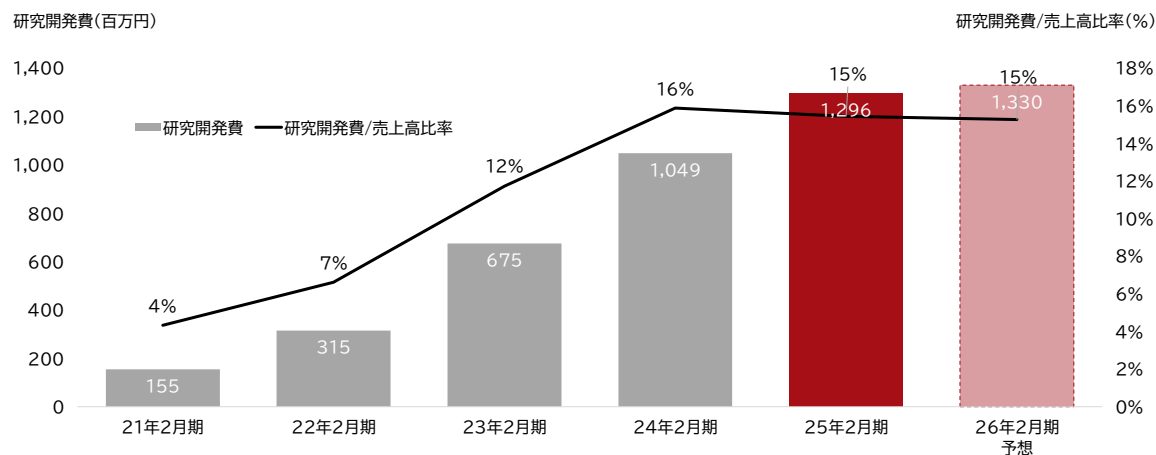
これまでの大型投資により、半導体事業を中心に製造キャパシティを拡大しました。

大規模な設備投資を行うフェーズから、事業の成長と収益性向上を図るフェーズへとシフトしていきます。

【研究開発費】

OXIDE

- 主に半導体事業、パワー半導体材料、量子分野に注力し、研究開発費は前年比で増加いたしました。
- 研究開発は将来の成長に必要不可欠であり、今後も投資を継続してまいります。



Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

18

研究開発費についてご説明いたします。

研究開発費は、売上高の約15%に相当する12億9,600万円となりました。

主に半導体事業、パワー半導体材料、量子分野に注力し、研究開発費は前年比で増加いたしました。

研究開発は将来の成長に必要不可欠であり、今後も投資を継続してまいります。

2026年2月期 業績予想(連結)



- 売上高 87億1,300万円(前期比3億1,900万円増収)
- 営業利益 4億900万円(前期比2億8,300万円増益)、営業利益率 4.7%
- EBITDA 12億7,800万円(前期比1億3,300万円増益)、EBITDAマージン14.7%

(単位:百万円、%)

項目	25年2月期 通期	26年2月期					増減
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	
売上高	8,394	1,814	2,162	2,091	2,645	8,713	319
半導体	4,703	890	1,068	1,061	1,534	4,555	▲ 148
ヘルスケア	1,226	401	584	534	649	2,170	944
新領域	2,464	521	509	495	461	1,987	▲ 477
営業利益	126	▲ 215	265	32	326	409	283
(営業利益率)	1.5%	▲11.9%	12.3%	1.5%	12.4%	4.7%	3.2%
研究開発費	1,296	337	282	306	403	1,330	34
EBITDA※1	1,145	6	479	246	545	1,278	133
(EBITDAマージン※2)	13.6%	0.4%	22.2%	11.8%	20.6%	14.7%	1.0%

2026年2月期の連結業績予想をご説明いたします。

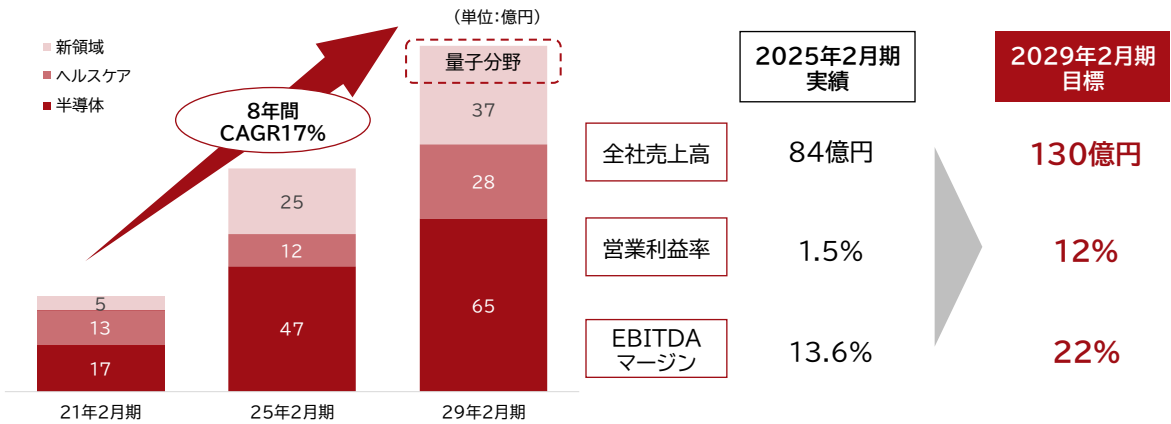
売上高は、前期比で3億1,900万円増収し、通期で87億1,300万円を見込んでおります

営業利益は、前期比2億8,300万円増益の4億900万円を見込んでおります。営業利益率は4.7%です。

EBITDAは前期比1億3,300万円増益の12億7,800万円を見込んでおります。EBITDAマージンは14.7%です。

中期経営目標

- 2029年2月期の経営目標は、売上高130億円、営業利益率12%、EBITDAマージン22%としました。
- 既存事業の成長に加えて、新たな事業の柱として量子分野での事業収益創出を目指します。



中期経営目標についてご説明いたします。

2029年2月期の経営指標目標は、売上高130億円、営業利益率12%、EBITDAマージン22%としました。

既存事業の成長に加えて、新たな事業の柱として量子分野での事業収益創出を目指します。

06.米国および中国の関税政策・輸出規制が当社に及ぼす影響について

米国および中国の関税政策・輸出規制が当社に及ぼす影響について OXIDE

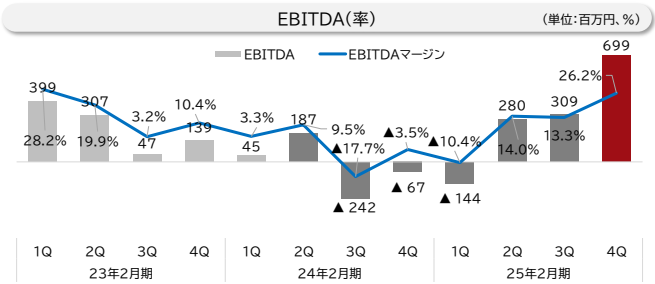
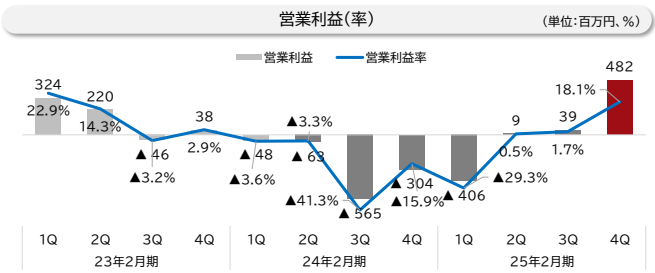
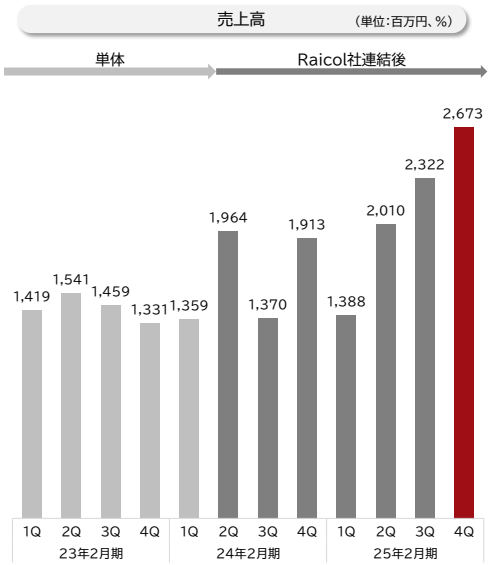
- 米国および中国の関税政策・輸出規制が当社に及ぼす影響について、現時点における当社の見解をまとめました。
- 規制動向等を注視しつつ、ビジネスチャンスに対して積極的に行動してまいります。

	半導体	ヘルスケア	新領域
当社の生産拠点	日本	日本	日本およびイスラエル
米国政策による影響	【リスク】 レーザ製品の米国出荷依存度は低く、米国関税政策の影響は限定的と考えております。 波長変換単結晶は市場シェアが95%以上であり、品質や生産体制の面で他社製品への置換は難しいと考えられ、米国関税政策の影響は限定的と考えております。 【ビジネスチャンス】 米国輸出規制により、中国半導体製造装置メーカーによる米国製品の購入が制限される場合があります。この為、当社への引き合いが増加しております。	【リスク】 米国関税政策の影響度合いについては現在精査中です。 【ビジネスチャンス】 中国輸出規制による影響を受けなかった場合でも、米国結晶メーカーは、米国関税政策により事業展開に影響が出る可能性があります。この為、当社への引き合いが増加する可能性があります。	【リスク】 新領域事業製品の米国出荷依存度は低く、米国関税政策の影響は限定的と考えています。 Raicol社製品について、イスラエル製品に対する関税は他の主要国と比較し低い為、米国関税政策の影響は限定的と見込んでおります。 【ビジネスチャンス】 米国関税政策や長期的な調達不安の観点から、米国顧客が中国製品の購入を控える可能性があります。この為、当社やRaicol社への引き合いが増加する可能性があります。
中国政策による影響	【ビジネスチャンス】 中国関税政策により、中国半導体製造装置メーカーが米国から製品を購入する際に影響が出る可能性があります。この為、当社への引き合いが増加しております。	【リスク】 中国輸出規制の影響度合いについては現在精査中です。 【ビジネスチャンス】 中国輸出規制により、米国結晶メーカーによる中国産原材料の購入が制限される可能性があります。この為、当社への引き合いが増加する可能性があります。	【ビジネスチャンス】 米国輸出規制の影響を受けないレーザ製品についても、中国関税政策の影響を受けて価格が上昇する可能性があります。この為、当社への引き合いが増加しております。

Appendix

財務トレンド

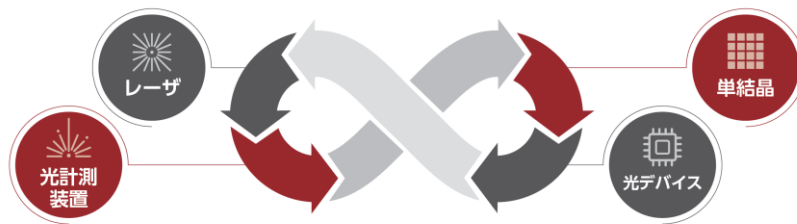
OXIDE



※2024年2月期第4四半期にて、Raicol社の子会社化に伴うPPAの確定により、取得原価の配分を見直しました。
Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved. このため、2024年2月期第2四半期及び第3四半期の数値は、通及後のものとなっております。

当社は**単結晶・レーザ**の
グローバルニッチトップカンパニーを目指します

- 研究成果を社会に還元し、**キーマテリアル**を世界に向けて発信する
- 顧客へ**マテリアルソリューション**を提供し、社会の発展に貢献する
- 単結晶を核とした製品を開発し、**未来の市場機会**を創造し続ける



OXIDE

ディスクレーマー

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の想定及び所信に基づく見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。

実際の業績に影響を与えるリスクや経済動向、業界需要などの不確定要因を含んでいます。

当社の見込みと実際の業績は異なる場合があります。ご了承ください。

本資料に記載された金額は表示単位未満を切り捨て処理、比率は表示単位未満を四捨五入処理しているため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

2024年2月期第4四半期にて、Raicol社の子会社化に伴うPPAの確定により、取得原価の配分を見直しました。このため、2024年2月期第2四半期及び第3四半期の数値は、遡及後のものとなっております。

豊かな未来を光の技術で実現する

<https://www.opt-oxide.com>

Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.